

男性胃癌患者において術前の筋肉量評価は術後合併症発生予測に有用である

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-11-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山田, 卓司 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00023888

様式 (6)

学 位 審 査

学 位 番 号	乙 第 2919 号	氏 名	山田 卓司
審 査 委 員 会	主 査 教 授	徳重 克年	
論文審査の要旨 (400 字以内)			
<p>近年、栄養評価法として体成分分析機器が開発され、筋肉や脂肪量の精密な測定が可能となった。今回、胃癌患者の術後合併症予測における術前筋肉量評価の有用性を検討した。2011 年から 2013 年に胃癌の手術を施行した男性 90 例を対象とした。術後合併症が発生した群 15 例と発生しなかった群 75 例で、術前の年齢、体重、BMI、体成分分析で得られた体筋肉率と体脂肪率、身長で補正した筋肉量に加え、小野寺指数、Modified Glasgow Prognostic Scale (mGPS)を比較検討した。体成分分析には生体電気インピーダンス法 (BIA) を用いた。</p> <p>(結果) 単変量解析では、合併症群で有意に術前併存疾患を有する症例が多く ($p=0.0352$)、BMI 高値 ($p=0.0033$)、体筋肉率低値 ($p=0.0001$)、体脂肪率高値であった ($p=0.0021$)。多変量解析では体筋肉率低値のみが独立した術後合併症のリスク因子となった (Odds 比 1.875、$p=0.001$)。</p> <p>(結語) 男性胃癌患者において術前の筋肉量評価は術後合併症発生予測に有用であり、意義ある論文であると評価した。</p>			
本要旨は当該論文が第二次審査に合格した後の 1 週間以内に医学部学務課へご提出下さい。(本学学会雑誌に公表) [学校教育法学位規則第 8 条]			